

# 水源地域振興の為の水源地・水に関する意識調査

新垣裕治

The opinion poll with respect to water resources and water for the development of municipalities having water resources

Yuji Arakaki

## 要 約

人口の増加、生活水準の向上、産業活動及びリゾート開発等の増加により、沖縄における水の需要は、1972年の本土復帰当時と比べると約2倍に増加している。これら需要の増加に対応するために、沖縄島北部には福地ダム、新川ダム、安波ダム、普久川ダム、辺野喜ダム、漢那ダムが建設された。現在建設中のダム、今後建設が予定のダムもまだあり、更なるダム数の増加が見込まれる。一方、ダムの建設地になっている自治体からは、ダム建設に伴う環境破壊、水源を保持するための開発の抑制、開発の抑制に起因すると思われる若者人口の流出（高齢化と過疎化等の進行）の犠牲を我慢し中南部へ送水しているのにも拘わらず、水源自治体としては受けている恩恵は極めて少ないとの不満の声が上がっている。本研究では、上記の現状を受け県民の水源地と水に対する意識調査をアンケート調査により行い、水源地振興の為の交付金の設定が可能か、また、その時の金額について考察をする事を目的として行った。アンケート回答者の意識としては、水道料金が高くなるに従い、水源地・水に関する意識は高くなる傾向にある事が分かった。関心事としては、水質や濁水等に対する事が最も多く、水源地の振興等に関する事への関心は非常に低かった。水源地へ何らかの協力が出来るとする回答は61.4%で、金銭的な協力(水道料金に上乗せする)が出来るとする回答は52.3%であった。水1トンあたりの交付額を比較的多くの回答を集める事が出来た那覇市、浦添市、沖縄市、名護市で計算したところ、それぞれ、27.6円、16.6円、22.9円、28.9円であった。この金額は東村議会議決した、10円/1トンをいずれも上回っている金額である。

## Abstract

Okinawan's demand for water has doubled since the revision in 1972 due to an increase in population, upgrading in the standard living, industrial activity, resort development, etc. To cope with this increased demand, six dams, Fukuchi Dam, Arakawa Dam, Aha Dam, Fukugawa Dam, Benoki Dam, and Kanna Dam, were constructed in the northern region of Okinawa's main island. Another dam is currently under construction, and there are plans for construction of several more. All indications point out to there being more dams in the future. On the other hand, the municipalities, which have dams or have plans for dam construction, are discontent with the little benefit derived from the dams. This research was designed to address the above problems by using a questionnaire to discern the opinions of Okinawans regarding water and water resources. The possibility of grant sys

tem for stimulating regional growth and the amount of such grants were also included in the questionnaire. The results of the questionnaire show an increase in water charges as well as an increased interest in water and water sources. Most interest was shown for water quality and shortage of water, but not for municipalities development. Of the respondents, 61.4% wanted to do something for the local region whereas 52.3% wanted the local region to be assisted of the grant together with a surcharge on monthly water bills. The amount of grant per ton of water was analyzed for the municipalities offering much data: Naha, Urasoe, Okinawa, and Nago. The amounts of grants for these cities are 27.6 yen, 16.6 yen, 22.9 yen, and 28.9 yen, respectively. These amounts are higher than 10 yen per ton amount decided on by the Higasi Municipal Assembly.

## はじめに

人口の増加、生活水準の向上、産業活動及びリゾート開発等の増加により、沖縄における水の需要は1990年で、1972年の本土復帰当時と比べると約2倍に増加している(沖縄開発庁、2000)。これら需要の増加に対応するために、沖縄島北部には福地ダム(1972年建設着手告示、1974年管理開始)、新川ダム(1973年建設着手告示、1977年管理開始)、安波ダム(1974年建設着手告示、1983年管理開始)、普久川ダム(1974年建設着手告示、1983年管理開始)、辺野喜ダム(1978年建設着手告示、1988年管理開始)、漢那ダム(1979年建設着手告示、1993年管理開始)が建設された。現在建設中のダム、今後建設予定のダム計画もまだあり、更なるダム数の増加が見込まれる。一方、ダムの建設地になっている自治体からは、ダム建設に伴う環境破壊、水源を保持するための開発の抑制、開発の抑制に起因すると思われる若者人口の流出(高齢化と過疎化等の進行)の犠牲を我慢し中南部へ送水しているのにも拘わらず、水源自治体としては受けている恩恵は極めて少ないとの不満の声が上がっている。2000年3月の東村議会では水源地の振興を図る観点から「水源基金条例」の見直しか、「水源地振興基金」を新たに設置し、地域振興助成措置として、ダムからの源水1トン当たり10円の交付の要求を沖縄総合事務局、沖縄県議会、沖縄県知事、沖縄県企業局、(財)沖縄県水源基金

へ対いし行った(琉球新報、2000)。

本研究では、上記の現状を受け県民の水源地と水に対する意識調査をアンケート調査により行い、水源地振興の為の交付金の設定が可能か、また、その時の金額について考察をする事を目的として行った。

## 方法

街頭で道ゆく人にアンケートをお願いした。アンケートの対象者としては、水道料金を自身で払っている人でなければならないと考え、10代の後半(18歳から19歳)よりも高齢の人にアンケートをするように努めた。

アンケートは、水の供給側の意識を理解する為に、水源地(ダム)の集中している沖縄島北部と水の供給を受ける側の意識が分かるように、水の供給を殆ど北部からの送水に頼っている沖縄島中部・南部で行った。北部では名護市でアンケートを行い、中部では沖縄市、南部では那覇市でアンケートを行った。アンケートは平成13年2月16日から3月2日の約2週間の間に行った。

アンケートでは、まず、年齢、性別、住所、職業の属性を明かにする質問をした。次に、現在の水道料金に関する質問、水源地に関する質問、水源地への金銭的な協力として現在の水道料金に上乗せできる金額、ダム建設に関する考え、最後に水に関するコメントを書いてもらっ

た（アンケートの詳細は付録のアンケート用紙を参照）。

## 結果

アンケート全回答者は671人で、その内県内在住者は33市町村(8市11町14村)に在住する639

人(全体の94.9%)である。県外からは22人(全体の3.3%)の回答があった、また住所の記述がない回答者が10人(全体の1.5%)いた(表1)。本調査は沖縄における飲料水に関する意識調査であるので、県外在住の回答及び住所を記していない回答は集計の対象から外した。

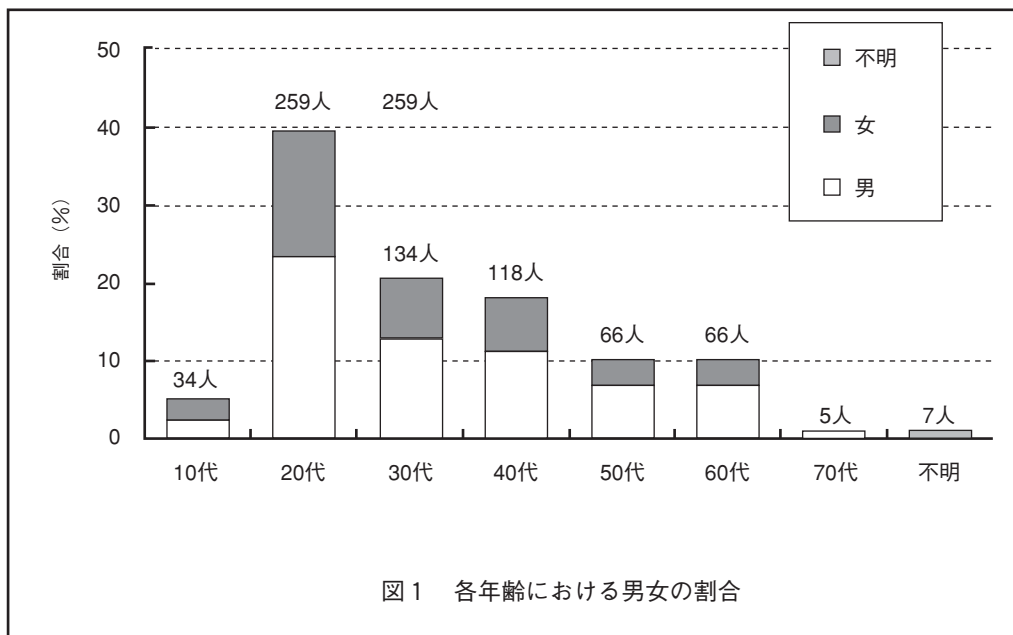
表1 回答者の住所と水源の有無

取水堰き・ダムなし								
市町村	人数	割合(%)	市町村	人数	割合(%)	市町村	人数	割合(%)
那覇市	137	20.4	名護市	133	19.8	県外	22	3.3
浦添市	73	10.8	沖縄市	47	7.0	N A	10	1.5
宜野湾市	35	5.2	石川市	21	3.1	合計	32	4.8
北谷町	21	3.1	国頭村	13	1.9			
具志川市	20	3.0	本部町	13	1.9			
豊見城村	17	2.5	東村	5	0.7			
今帰仁村	16	2.4	嘉手納町	1	0.1			
糸満市	11	1.6	合計	233	34.6			
西原町	10	1.5						
中城村	8	1.2						
北中城村	7	1.0						
読谷村	7	1.0						
南風原町	6	0.9						
金武町	5	0.7						
佐敷町	5	0.7						
大宜味村	4	0.6						
勝連町	4	0.6						
宜野座村	4	0.6						
与那城町	4	0.6						
東風平町	3	0.4						
大里村	2	0.3						
知念村	2	0.3						
与那原町	2	0.3						
恩納村	1	0.1						
玉城村	1	0.1						
仲里村	1	0.1						
合計	406	60.3						

\*各行政区分の取水堰き・ダムの有無は「やんばるのダム 事業概要 平成12年3月」(沖縄開発庁 沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所)のpp10-11を参照した。

年齢構成は、20歳代が39.9%(259人)を占め最も多く、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代と高齢になるに従い人数が減少している(図1)。性別では、男性が59.3%(379人)であるのに対し女

性では39.9%(255人)と男性が多くなっている。各年齢別でも男女の割合は概ね6対4である(図1)。



職業では、パート・アルバイトが31.6%(202人)でずば抜けて多く、次に公務員・教員の13.6%(87人)、農・林・漁業の13%(83人)、自営業の

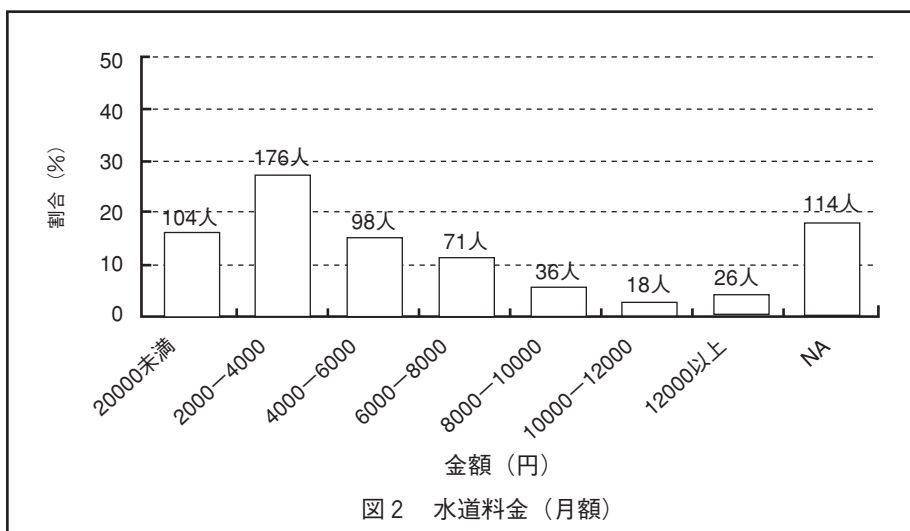
11.1%(71人)、会社員の9.9%(63人)と続いている(表2)。

表2 回答者の職業

職業	人数	割合 (%)
パート・アルバイト	202	31.6
公務員・教員	87	13.6
農・林・漁業	83	13.0
自営業	71	11.1
会社員	63	9.9
専業主婦	57	8.9
学生	29	4.5
無職	28	4.4
その他	11	1.7
N A	8	1.3
合計	639	100.0

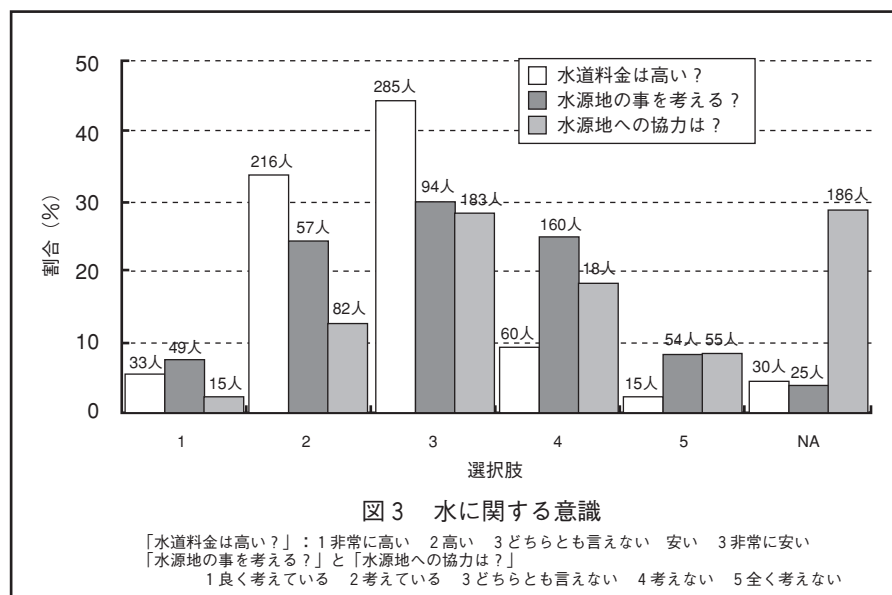
水道料金では、2000-4000円の回答が27.4% (176人)で最も多く、次に2000円未満の16%(104

人)、4000-6000円の15.2%(98人)、6000-8000円の11.1%(71人)と続く(図2)。



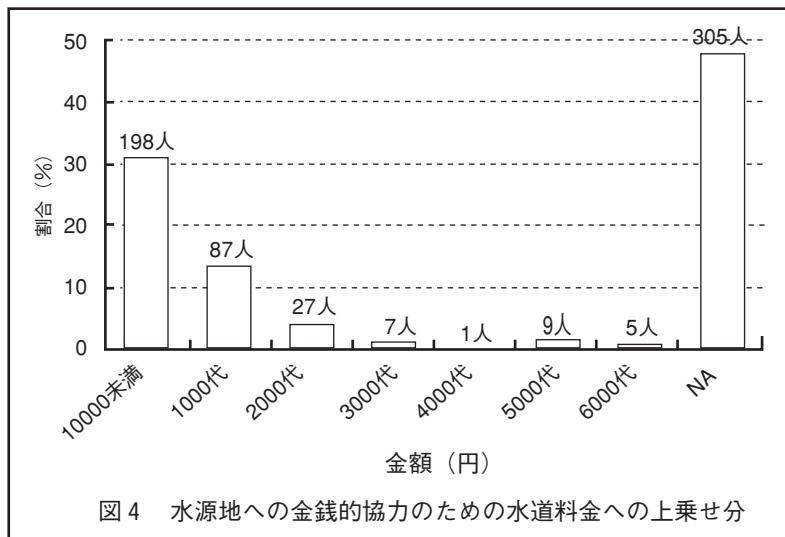
「現在の水道料金は高いと思いますか」との問いに対し、「どちらとも言えない」と回答した人が44.6%(285人)で最も多く、次に「高い」の33.8%(216人)、「安い」の9.4%(60人)と続いている(図3)。「水源地のことを考えたことがありますか」との問いでも、「どちらとも言えない」が30.4%(194人)でも最も多く、次に「考

えていない」の25%(160人)と「考えている」の24.6%(157人)が殆ど同数で続いている(図3)。「水源地に何らかの協力をしたいと考えていますか」との問いに対しても、「どちらとも言えない」が28.6%(183人)で最も多く、次に「考えていない」の18.5%(118人)、「考えている」の12.8%(82人)と続いている(図3)。



このようにこれら3つの質問では、いずれも「どちらとも言えない」が最も多い回答ではあるが、それぞれの質問により回答の傾向は異なっている。「現在の水道料金は高いと思いますか」との問いに対しては、高いと思っている回答者が多い傾向にあるの事がわかる。これに対し、「水源地のことを考えたことがありますか」との問いでは、「どちらとも言えない」を回答者数のモードとし、「考えている」と「考えていない」との回答者数がほぼ同数でモードの両側へ偏りなく分布している。「水源地へ何らかの協力をしたいと考えていますか」との問いでは、協力をしたいと考えている回答者が43.8%（「良

く考える」「考える」「どちらとも言えない」の合計)であるが、一方、協力したくないと考えている回答者は56.2%（「考えない」「全く考えない」「NA」の合計）となっているので、考えていないの方向へ回答者数が偏る傾向にある。水源地への金銭的な協力として水道料金へ上乗せできる金額としては、1000円未満が31%（198人）で最も多く、次に1000円代の13.6%（87人）、2000円代の4.2%（27人）と金額が高くなるに従い回答者数が減少していく。この問いでは、無回答者数が47.7%（305人）と非常に高い値を示している（図4）。



水源地に対する回答者の意識で、「水源地の事で考えている事」と「水源地への協力で考えている事」の記述内容をカテゴリー分けしてまとめたのが表3である。「水源地の事で考えている事」では、「水質」が62人(9.7%)が最も多く、次に「水不足」が22人(3.4%)、そして「自然破壊」が21人(3.3%)で比較的割合が高くなっている。一方、「水源地の振興」に関係する事を書いてきたのは2人(0.3%)にしか過ぎない。次に、「水源地への協力で考えられる事」では、「分からない・考えていない」と「水質保全」が共に27人(4.2%)で最も多く、「節水」の19人

(3%)、「環境保全」の11人(1.7%)と続いている。一方、水源地への直接的な援助と考えられる「金銭的援助」は7人(1.1%)である。

「水に関するコメント」の記述内容をカテゴリー分けしたのが表4である。ここでは、「水の味」の40人(6.3%)が最も多く、次に「節水」の20人(3.1%)、「水質」の13人(2%)、「水質保全」の7人(1.1%)と続いている。一方、ここでも、上記と同様に水源地への支援に関するカテゴリー「水源地への援助」は2人(0.3%)の低い割合になっている。

表3 水源地に対する考え

水源地の事で考えている事					
カテゴリー	人数	割合 (%)	カテゴリー	人数	割合 (%)
水質	62	9.7	分からない・考えていない	27	4.2
水不足	22	3.4	水質保全	27	4.2
自然破壊	21	3.3	節水	19	3.0
考えていない	12	1.9	環境保全	11	1.7
自然保護	10	1.6	ゴミを減らす	8	1.3
ダムを増やす	5	0.8	金銭的援助	7	1.1
節水	4	0.6	節水・水質保全	6	0.9
ダムの不足	4	0.6	ボランティア	6	0.9
北部に集中	3	0.5	植林	3	0.5
井戸利用	2	0.3	清掃	3	0.5
水源地の振興	2	0.3	雨水利用	1	0.2
海水淡水化	1	0.2	協力の意思	1	0.2
自然破壊・金銭的支援	1	0.2	無用	1	0.2
浄水	1	0.2	その他	10	1.6
深層水	1	0.2	不明	6	0.9
水源地の開発	1	0.2	NA	503	78.7
水源地の優遇	1	0.2	合 計	639	100.0
水質・自然破壊	1	0.2			
水量	1	0.2			
ダム建設費用	1	0.2			
ダムの寿命	1	0.2			
水の味	1	0.2			
その他	13	2.0			
不明	19	3.0			
NA	449	70.3			
合 計	639	100.0			

表4 水に関するコメント

カテゴリー	人数	割合 (%)
水の味	40	6.3
節水	20	3.1
水質	13	2.0
水質保全	7	1.1
自然保護	5	0.8
代替水資源	4	0.6
雨水利用	2	0.3
水源地への援助	2	0.3
水道料金	2	0.3
ダム建設反対	2	0.3
下水処理	1	0.2
自然破壊	1	0.2
浄水	1	0.2
水質保全・節水	1	0.2
水道水は飲めない	1	0.2
断水	1	0.2
ホテルの水の使用量	1	0.2
水の有効利用	1	0.2
水を購入	1	0.2
その他	35	5.5
分からない	4	0.6
不明	3	0.5
なし	17	2.7
NA	474	74.2
合 計	639	100.0

表5 ダム建設に対する考え

カテゴリー	人数	割合 (%)
環境保全に注意	58	9.1
建設賛成	35	5.5
建設反対	30	4.7
分からない・考えていない	23	3.6
ダムの公園化	6	0.9
地域尊重	4	0.6
代替水源地	3	0.5
節水	3	0.5
ダムの北部集中	3	0.5
雨水利用	2	0.3
現状維持	2	0.3
自然破壊	2	0.3
ダムの分散	2	0.3
淡水化施設	1	0.2
その他	22	2.0
不明	13	3.4
NA	430	67.3
合計	639	100.0

水道料金(1ヶ月)と水源(取水堰き・ダム)の有無の関係について述べたのが図5である。本調査では、水源地のない地域の居住者からの回答(59%)が水源地のある地域からの回答者より多い。それぞれの地域の水道料金は、水源地の

無い地域の回答者の水道料金が高くなるに従い、それぞれの金額範囲における人数の割合として増える傾向にある。2000円未満の金額では、水源地の無い地域の回答者が45%であるのに対し、10000-12000円では72%に増えている。こ

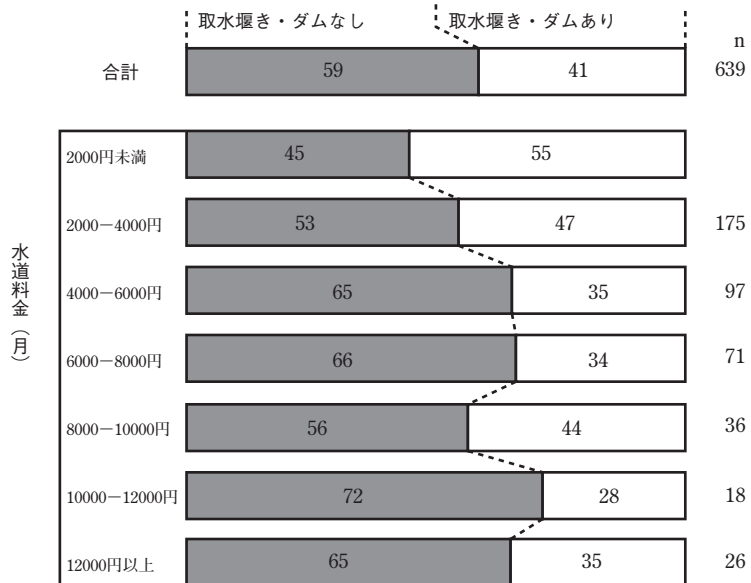


図5 水源地の有無と水道料金  
帯グラフの数値は割合 (%) を示す。nは人数を示す。



の事は、「水道料金は高いと思いますか」との間でも同じ結果が出ている。水源地の無い地域は、水源のある地域に比べ、水道料金が低い（「非常に高い」と「高い」の合計）と思っている割合が10%高くなっている(図6)。また、水

道料金に対する感覚と実際的水道料金との関係では、水道料金が高くなるにつれて水道料金が低い（「非常に高い」と「高い」）と思っている回答者の割合が増える傾向にある(図7)。

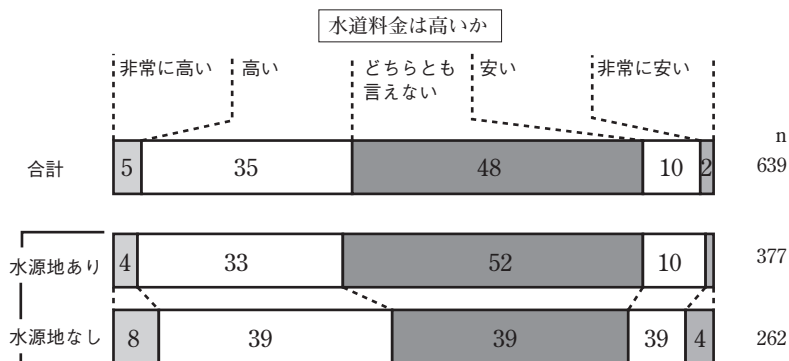


図6 水源地の有無と水道料金に対する金銭感覚  
帯グラフの数値は割合(%)を示す。nは人数を示す。

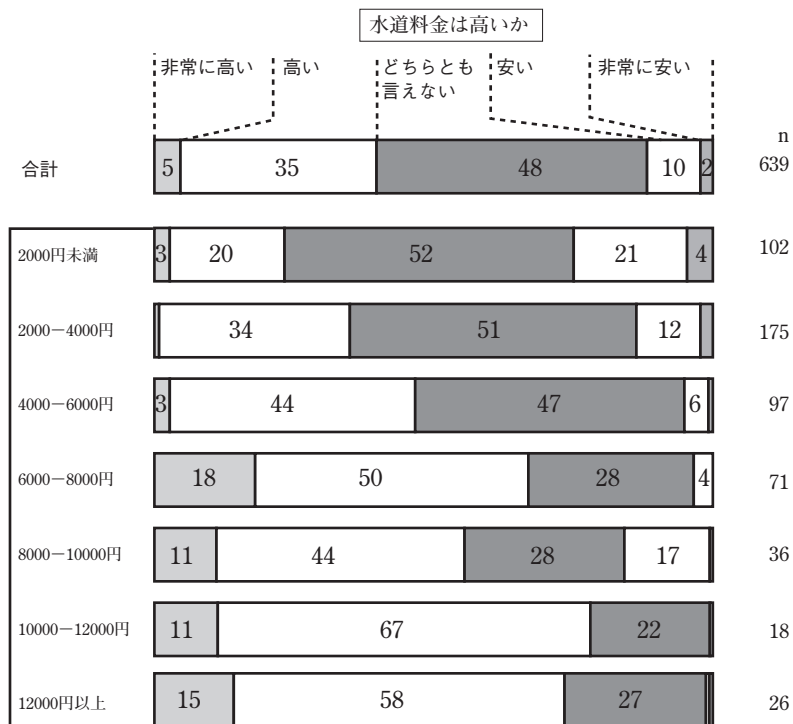


図6 水道料金と水道料金に対する金銭感覚  
帯グラフの数値は割合(%)を示す。nは人数を示す。

水道料金と「水源地のことを考えていますか」との関係では、水道料金が高くなるに従い、「考えている」とする回答者数の割合が増え、「どちらとも言えない」とする回答者の割合が減少

する傾向にある。一方、「考えていない」と「全く考えていない」の回答者数の割合は、水道料金の金額に拘わらず顕著な傾向の変化はない(図8)。次に、「水道料金は高いと思いますか」の問い

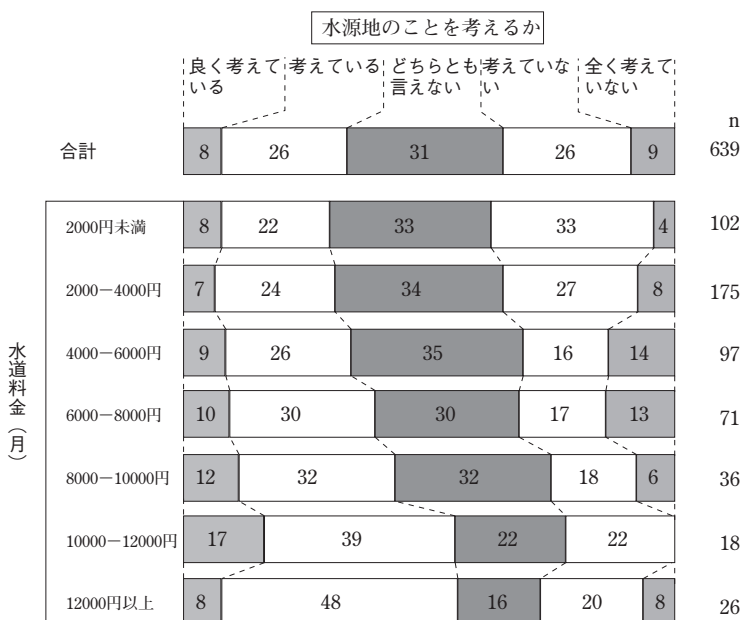


図8 水道料金と水源地に対する思い  
帯グラフの数値は割合(%)を示す。nは人数を示す。

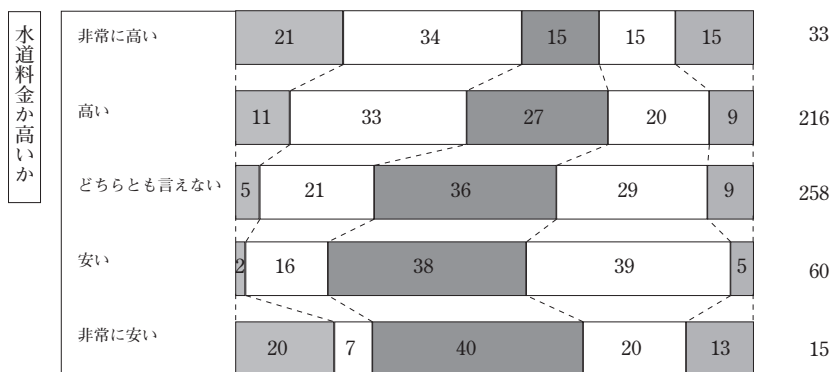


図9 水道料金の金銭感覚と水源地に対する思い  
帯グラフの数値は割合(%)を示す。nは人数を示す。

と、「水源地のことを考えたことがありますか」との関係では、水道料金が高いと思っている回答者ほど水源地のことを考えているとする割合が高くなっている(図9)。故に、これら図8と図9の結果より高い水道料金を払っている回答者と水道料金が高いと思っている回答者は、水源地の事を考えるとする割合が多くなる事が分かる。また、図7より、水道料金の高いと思っている回答者は実際に水道料金が高いと言う事が分かる。図8と図9の結果に図7の結果を合わせて考えると、水道料金の高い回答者は水源地の事をそうでない回答者よりよく考えることになる。

水源地への金銭的な協力として1ヶ月当たり上乗せ出来る金額と「水源地へ何らかの協力をしたいと考えていますか」との関係では、上乗せ出来るとする金額が高額な回答で、「どちらとも言えない」とする回答者の割合が増える傾

向にある。しかし、上乗せ出来るとする金額が3000円以上では、回答者数が7人、1人、9人、5人と少なく、統計的な信頼性に問題ある。上乗せ出来るとする金額が2000円代までの回答者では、「考えていない」とする回答者の割合が多くなる傾向にある(図10)。また、この結果は水源地の事を積極的に考えていない回答者(「どちらとも言えない」、「考えていない」「全く考えていない」とする回答者)でも、水源地への協力として金銭的に協力することができる事を示している。また、水道料金(月)と水道料金に上乗せできる金額(月額)の関係は相関はない(図11)。こらより、水源地への金銭的な協力では、水源地に対する協力の意思の強さと協力金の金額には特別の関係が無く、また、水道料金(月額)と協力金の金額にも特別の関係が無い事が分かった。

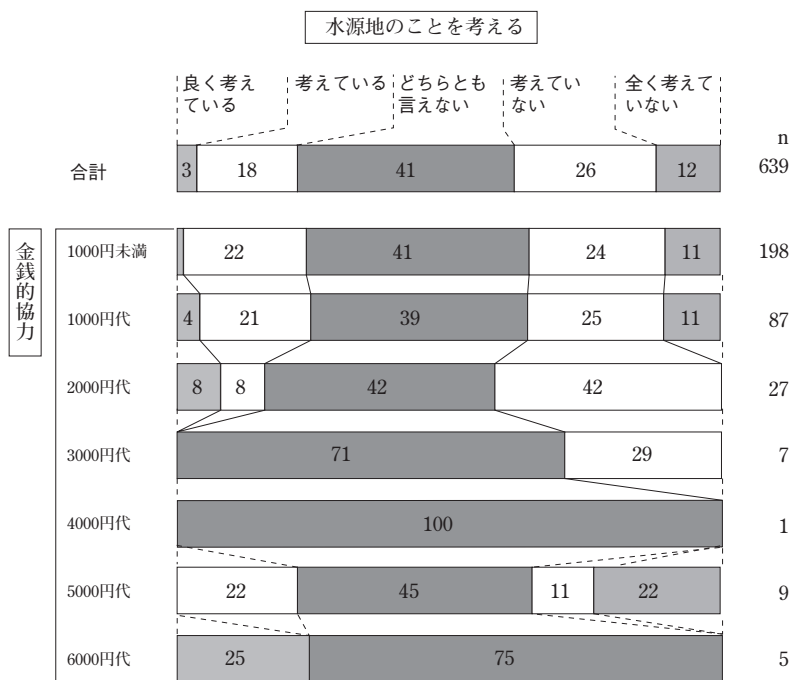


図10 水道への上乗せ金額と水源地に対する協力  
帯グラフの数値は割合(%)を示す。nは人数を示す。

## 考察

今回の結果(図7、8、9)より、水道料金が高くなるに依り、水源地や水に対する関心は高くなることが分かった。関心事の内容としては、水質と濁水、自然保護に関することが主であり、水源地の振興に関する事に対しては非常に関心が薄い事がわかった。しかし、水源地へ何らかの協力ができるとする回答者の割合は43.8%で約半数の回答者が何らかの協力ができるとしている。また、金銭的な協力ができるとする回答者は「水道料金に上乗せできる金額」を訊いた質問(Q11)で、NA(47.7%)以外と考えることができるので、全回答者の52.3%、半数以上の回答者が金銭的な協力ができると考えることができる。この事から、源水に対して交付金を設定する事ができるかの判断は難しいところであるが、少なくとも半数以上の回答者が水源地自治体に対し金銭的協力ができるとしていることは、今後交付金の設定を考えていく上では重要な結果である。

水源地への協力のために、水道料金に上乗せできる金額としては、1000円未満が31%であり、金銭的協力ができる金額としては最も多い。水源地への協力の意思(「良く考えている」「考えている」「どちらとも言えない」「考えていない」「全く考えていない」と水道料金へ上乗せできる金額の関係は、水源地の事を考えていると回答した人が上乗せできる金額が高いわけではなく、上乗せできる金額と水源地への意思との間には相関があるわけではない。次に、現

行の水道料金とそれに上乗せできる金額との関係でも相関はみられない。これらより言えることは、水源地へ協力したいと思っていう人でなくとも金銭的協力(水道料金への上乗せ)はできると言うことであり、また、上乗せできるとする金額と協力の意思の強さも関係がないこと言うことである。また、水道料金と上乗せできる金額との関係にも相関がない。この結果より、水道料金に上乗せする金額としては、水道使用量に関係なく一律加算方式の可能性も考えられる。しかし、多く使用した人は多く支払うのが常識的でないと思われるので、換算の方法は今後の課題である。

2000年3月の東村議会では、ダムからの源水1トン(1 $m^3$ )当たり10円の交付の要求を沖縄総合事務局、沖縄県議会、沖縄県知事、沖縄県企業局、(財)沖縄県水源基金へ対し行っている。水道料金は各自治体で異なるので、全体を一括して扱う事は望ましくない。本調査で比較的アンケート人数が多かった那覇市(82人の回答者)、浦添市(42人の回答者)、沖縄市(22人の回答者)、そして名護市(56人の回答者)での水道料金へ上乗せできる平均の金額(月額)から1 $m^3$ に換算した場合の上乗せ金額を計算した。那覇市が36円、浦添市が16.6円、沖縄市が31.6円、そして名護市では28.9円である(表4)。これらの金額は、東村が源水1 $m^3$ 当たり要求している10円の交付金の額を大きく上回っている。これから判断すると、1トン当たり10円の交付金を水道料金に上乗せすることはそれ程問題のあることは思

表6 水道料金へ上乗せできる金額(月額)

自治体	水道の種類	平均上乗金額(円)	月平均水道使用量( $m^3$ )	上乗金額(円)/ $m^3$
那覇市(82)	上水	828.2	30	27.6
	上下水	828.2	23	36
浦添市(42)	上水	596	36	16.6
沖縄市(22)	上水	662.7	29	22.9
	上下水	662.7	21	31.6
名護市(56)	上水	1156	40	28.9

自治体の( )内はアンケートの件数を示す。月平均水道使用量は、水道料金からの換算によって出した。上乗金額(円)/ $1m^3$ は、平均上乗金額(円)/平均水道使用量( $m^3$ )により算出した。

われない。

本調査では、沖縄島の住人が水源地と水に対しどのような意識を持っているのかを調べたものである。水は空気と同様で、有って当たり前のものであり、また、生活して行く上でなくてはならないものである。専ら水の供給を受けている人々は、水の質と渇水、水源地の自然環境に関心が集中し、水源地を持っている自治体が抱えている問題に対し関心が薄い。しかし、水源地を抱える自治体への金銭的支援を含めての支援へは肯定的であった。今後、水源地を抱える自治体への支援を考えて行く上で本調査の結果は支援策に肯定的に取り組む推進力を得るものであった。本調査の結果は、水を受給している住民の意識調査になっている。水源地と水の問題へ取り組んで行くには、水を供給している水源地自治体の住民への意識調査を行って行く必要があるであろう。

## 謝辞

本研究の出発点は、東村役場企画課長の山城定雄氏との会話の中で、福地ダムを抱える自治体として、水源地があるが故に派生してくる様々な問題の事を聞いてからである。故に本研究の着想は同氏に負うところが大きい。また、研究を進めるにあたり、いろいろなご助言、参考文献を同氏から頂いた事にも感謝申し上げます。本研究のアンケートに協力して頂き、貴重な意見を述べて頂いた、アンケート回答者方々にも感謝申し上げます。この研究は、名桜大学総合研究所平成12年度一般研究からの研究助成を受けています。

## 参考文献

沖縄開発庁 2000年 やんばるのダム事業概要  
琉球新報 2000年4月7日日刊  
源水1トンで10円

付録(アンケート用紙)

水に関する意識調査 平成 年 月 日 場所

水は、日々の生活の中でなくてはならないものです。朝、歯を磨き水で口をすすぎます。水で顔を洗います。用を足した後は水で洗い流します。朝シャンや朝風呂の人も多いと思います。朝食の味噌汁・スープ、お茶・コーヒーなどは水が無ければ作れません。また、食材を洗うためにも水が必要です。我々の生活から水を切り離して考えることができません。このアンケートは我々の生活に無くてはならない水に対する皆さんの意識を伺い、今後の水資源の開発、水資源供給地と需要地の望ましい関係を構築して行くための基礎資料を得るために行うものです。アンケート結果が特定の個人に不利益を与えるようなことは一切ありませんので、皆様のアンケートへのご協力をお願い致します。

名桜大学観光産業学科 山里・新垣  
電話：0980-51-1081

《まず、あなた自身についてお尋ねします》

Q1 年齢 満 ( ) 歳

Q2 性別 1 男 2 女

Q3 住所 ( ) 都・道・府・県 ( ) 市・町・村

Q4 主な収入源になっている職業

1 公務員・教員

6 専業主婦

2 会社員

7 学生 (高校・専門学校・短大・四大)

3 農・林・漁業

8 無職

4 自営業

9 その他 ( )

5 パート・アルバイト

《ここからは、あなたの水意識についてです》

Q5 お宅の現在の水道料金はいくらぐらいですか。また、それは何ヶ月分の料金ですか。  
( ) 円

1 1ヶ月 2 2ヶ月 3 3ヶ月以上 ( ) ヶ月 4 わからない

Q6 現在の水道料金は高いと思いますか。

1 非常に高い 2 高い 3 どちらとも言えない 4 安い 5 非常に安い

Q7 水源地のことを考えたことがありますか。

1 良く考えている 2 考えている 3 どちらとも言えない 4 考えていない  
5 全く考えていない

Q8 水源地のことで具体的にどのようなことを考えているかを教えてください。

---

---

---

Q9水源地域へなんらかの協力をしたと考えていますか。

- 1良く考えている 2考えている 3どちらとも言えない 4考えていない  
5全く考えていない

Q10水源地域への協力で具体的にどのようなことを考えているか教えてください。

---

---

Q11仮に、金銭的な協力をするとした場合、現行の水道料金にいくらまでなら上乗せできますか。

( ) 円

Q12ダム建設に対するあなたの考えを教えてください。

---

---

水に関するコメントがありましたらお願い致します。

---

---

ご協力有難うございました。